

## 日本国及びモロッコ王国の外務大臣による共同声明

2012年3月5日

1 玄葉光一郎日本国外務大臣の招待を受け、サアド・ディン・エル・オトマニ・モロッコ王国（以下「モロッコ」という。）外務・協力大臣は、2012年3月4日から7日の間、日本を公式訪問した。双方は2012年3月5日に会談し、皇室・王室の深い親交や国際場裡における緊密な協力関係に象徴されるように、日本とモロッコが幅広く深い協力関係を築いていることを確認した。双方は、二国間関係及び共通の関心事項である地域情勢、国際情勢について意見交換した。

2 玄葉大臣は、東日本大震災に際してモロッコ政府から頂いた温かいお見舞いの言葉、モロッコ人からの様々な援助及び駐日モロッコ大使館による被災地への支援ミッションの派遣に、改めて深い感謝の意を表明した。エル・オトマニ大臣は、改めて、日本を襲った震災の被害に関して、モロッコ王国の深い哀悼の意を表すると共に、この大震災に立ち向かう日本人の精神的な強さと規律正しさに敬意を表した。

### 1 二国間関係

#### a. 政治関係

3 玄葉大臣は、政治改革を進めたモハメッド六世国王のイニシアティブ、及びモロッコで実施された憲法改正や衆議院選挙の平和裡な実施という積極的な民主化プロセスへの取組に敬意を表した。玄葉大臣はエル・オトマニ大臣に対し、日本がモロッコの諸改革を引き続き支援する旨表明した。

4 エル・オトマニ大臣は、モロッコ政府が、政治面では透明性の確保によるグッド・ガバナンスの実施、個人・団体の自由権の拡大及び司法改革に、経済面では失業対策及び社会格差にプライオリティーを置く旨表明した。同大臣は、モロッコの社会的・経済的發展に資する日本の数十年来の支援、及び人間開発国家イニシアティブ（INDH）に基づいてモロッコが進めている計画に対する日本の支援に感謝した。

5 両大臣は、要人往来や日・モロッコ合同委員会の定期開催等を通じて、引

き続き、二国間関係強化に取り組むとの意思を確認した。また、双方は、第3回目となる次回の日・モロッコ合同委員会を、本年秋以降の適当な時期に東京で開催することで一致した。

#### b. 経済関係

6 両大臣は、近年、製造分野を中心に、経済分野における二国間関係が着実に進展していることを歓迎し、引き続き、両国間の貿易関係強化及び日本企業の対モロッコ投資促進に努める旨表明した。

7 双方は、2010年12月にチュニスで開催された第2回日本・アラブ経済フォーラムの際に、日本側は経済産業省及び新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）、モロッコ側はエネルギー・鉱山・水利・環境省、太陽エネルギー庁（MASEN）、電力公社（ONE）との間で署名した協力文書（MOC）をベースに、引き続き、太陽エネルギー分野における協力を推進していくことで一致した。

8 この関連で、エル・オトマニ大臣は、今後実施予定の同国内発電事業において、日本を含めた海外企業が参入しやすいように、太陽エネルギー発電に係る制度を設計する旨表明した。玄葉大臣は、その実現を支援する旨表明した。

#### c. 経済協力関係

9 玄葉大臣は、ドーヴィル・パートナーシップの下、モロッコを含む中東・北アフリカ地域の改革・民主化努力を後押しする旨表明した。同大臣は、基礎インフラ整備を中心とするこれまでの支援をベースとしつつ、民主化支援、地方のインフラ整備等を通じた地域格差是正、産業基盤整備や農水産業分野への支援を通じた産業振興、職業訓練等の若年層の雇用対策等を中心とした支援を実施していく考えである旨表明した。

10 双方は、モロッコにおける経済社会開発努力を支援するために、東日本大震災の被災地で製造された工業用品等を調達するための総額3億円のノン・プロジェクト無償資金協力案件に係る交換公文に署名した。双方は、同案件が、モロッコにおける経済社会開発及び日本における被災地の経済復興の双方に貢献することを期待する旨述べた。

1 1 日本側は、環境への配慮及び格差是正に資する「下水道整備計画（Ⅲ）」に対し、円借款を供与する意向を示した。モロッコ側は、本計画は、モロッコが取り組む経済社会問題の解決に資する案件であり、時宜を得た日本からの支援に感謝する旨表明した。

1 2 日本側は、モロッコが、水産、上下水道、母子保健、道路インフラ、漁業、農業等の分野において、サブサハラ・アフリカ諸国への三角協力を積極的に取り組んでいることを評価しており、今後も、モロッコを日本の対アフリカ支援のパートナーとして、共に三角協力を一層推進していきたい旨表明した。モロッコ側は、日本との三角協力を満足の意を表明するとともに、引き続き同協力の実施分野を広げつつ、効果的な実施に努める旨表明した。

1 3 モロッコ側は、これまでの長年にわたる日本の支援及び今回日本側から表明された新規支援に対して、深い感謝の意を表明した。

## II 国際場裡

1 4 中東・北アフリカ情勢に関し、両外相は、同地域において民主化プロセスが進んでいることを歓迎した。

1 5 双方は、特にシリア情勢が緊迫化している現状への懸念を表明し、中東・北アフリカ地域の平和と安定を維持することが重要であることで一致した。双方は、シリア情勢や中東和平問題等における協力を強化させ、同地域の平和と安定の確保に共に取り組んでいくことで一致した。

1 6 エル・オトマニ大臣は、同大臣のアルジェリア・チュニジア訪問及び2012年2月18日のラバトにおける第30回アラブ・マグレブ連合外相会合の開催を想起しつつ、モロッコ政府が統合された豊かなマグレブの建設のためのマグレブの活性化及びG A F T A又はアガディール協定等の枠組を通じたアラブ諸国との経済統合を重要視している旨表明した。玄葉大臣は、モロッコ的外交努力を歓迎するとともに、日本政府はモロッコを始めとしたアラブ・マグレブ諸国の経済発展のために重要な要因である地域統合に向けた努力を支援していく旨表明した。西サハラ問題に関して、玄葉大臣は、国連の枠組の下、当

事者間の交渉により、本件問題が早期に平和裡に解決されることを期待する旨の日本の立場を繰り返し述べた。

17 さらに、玄葉大臣は、経済関係の一層の強化を図るため、第3回日本・アラブ経済フォーラムを2012年中に東京で開催する予定である旨表明し、エル・オトマニ大臣は、同フォーラムは有益なツールである旨評価し、同会合に閣僚レベルが出席する旨述べた。両大臣は、第2回日本・アラブ経済フォーラムのマージンで開催した日・マグレブ諸国閣僚懇談会を、第3回同フォーラムの際に開催することは有意義である旨一致した。

18 テロ対策に関し、双方は、マグレブ地域及びサヘル地域における安全に対する脅威に関する懸念を共有し、テロは国境を越える問題であることから、地域・国際協力が必要である旨一致した。双方は、テロ対策における国際協力を強化するとの意思を確認した。これに関連し、エル・オトマニ大臣は、リビアからの武器の流通によってマグレブ諸国が直面する課題を想起した。

19 両大臣は、国連等、国際場裡における緊密な協力関係を更に強化するとの相互意思を確認した。

20 両大臣は、国連安保理改革の早期実現の必要性和国際場裡における日本の重要性を改めて確認した。エル・オトマニ大臣は、モロッコが2015年安保理非常任理事国選挙で日本を支持する旨、改めて表明した。これに対し、玄葉大臣は、深甚なる謝意を表明し、モロッコの安保理非常任理事国選挙における当選に祝意を表明した。

21 玄葉大臣は、拉致問題を含む北朝鮮の人権状況に対する強い懸念を表明し、拉致問題は、基本的人権の侵害という国際社会にとっての普遍的な問題であるという観点から、日本がEUと共に国連総会に提出してきている北朝鮮人権状況決議をモロッコが一貫して支持していることに謝意を表明した。エル・オトマニ大臣は、拉致問題に関する問題に対する日本側の立場に理解を示し、双方は、同決議案について今後も協力を継続していく旨確認した。エル・オトマニ大臣は、ティンドウフの難民キャンプにおいても人権問題が存在する旨想

起した。

22 エル・オトマニ大臣は、本年5月5日及び6日にモロッコで開催予定の第4回T I C A D閣僚級フォローアップ会合に関し、モロッコの同会合開催提案の受け入れについて日本政府に謝意を表明した。両大臣は、同会合及び2013年6月に日本で開催されるT I C A D Vの成功に向けて、連携していくとの意思を表明した。

2012年3月5日、東京にて署名した。

日本国外務大臣  
玄葉 光一郎

モロッコ王国外務・協力大臣  
サアド・ディン・エル・オトマニ